



CAMPANOLA

取扱説明書

INSTRUCTION MANUAL

CAN21

このたびは、カンパノラウォッチをお買い上げいただきましてありがとうございます。ご使用の前にこの取扱説明書をよくお読みの上、正しくお使いくださいますようお願い申し上げます。

なお、この取扱説明書は大切に保管し、必要に応じてご覧ください。

シチズンホームページ(<https://citizen.jp/>)でも操作説明がご覧いただけます。

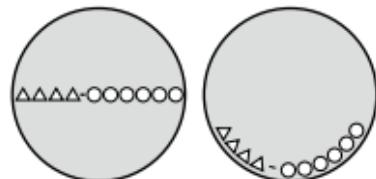
また、モデルによっては、外装機能（計算尺、タキメーターなど）が搭載されているものもあり、取扱説明書に記載されていない外装機能の操作も同様にご覧いただけます。

機種番号の見かた

時計の裏ぶたに、アルファベットを含む4ケタと6ケタ以上からなる番号が刻印されています。（右図）
この番号を「側番号」といいます。

側番号の先頭の4ケタが機種番号になります。
右の例では「△△△△」が機種番号です。

刻印の位置の例



時計によって表示位置は異なります。

安全にお使いいただくために（必ずお読みください）

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

絵表示の意味をよく理解してから34～41ページを必ずお読みください。

■表示内容を無視して誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。

 危険	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が高い」内容です。
 警告	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。
 注意	この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

■お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。
(下記は絵表示の一例です。)

	このような絵表示は、気をつけていただきたい「注意喚起」内容です。
	このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。

ご使用になる前に

◆ 保護シールについて

時計のガラス部分や金属部分（裏ぶた、バンド、中留め）にシールが貼られているときは、ご使用の前に必ずはがしてください。シールのすき間に汗や水分が入り込むと、皮膚のかぶれや金属の腐食の原因となる場合があります。

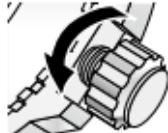
◆ バンド調整について

お客様ご自身で時計のバンド（金属やゴム）の長さを調整しないでください。時計が落下したり、調整時にケガをする怖れがあります。バンドの調整は、お買い上げ店または、弊社お問い合わせ窓口にて承っております。その他のお店では有料もしくは取り扱っていない場合があります。

◆ 特殊な構造のリューズについて

モデルによっては、誤操作を防ぐため、次のような構造のリューズの場合があります。

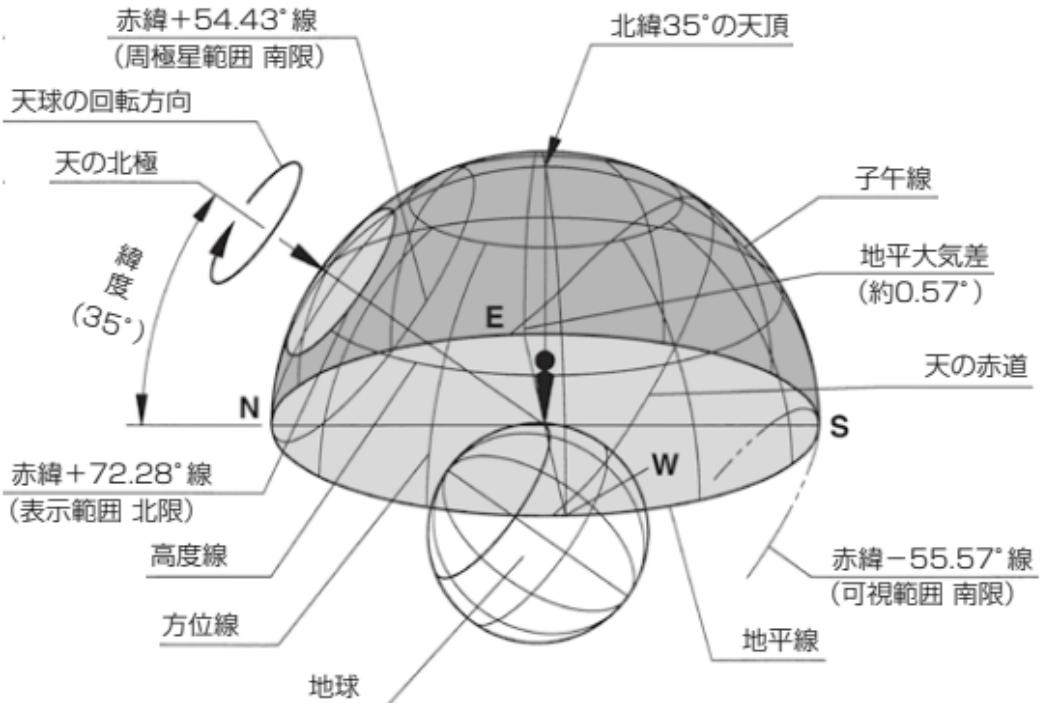
時計を操作するときは、ロックを解除してください。

	ロックを解除する	再びロックする
ねじロック リューズ	 <p>リューズが飛び出すまで、左に回す</p>	 <p>リューズを押し込みながら右に回し、しっかりと締める</p>

もくじ

CAMPANOLA 星座ウォッチ	8
北緯 35° 星座全天表示型	9
主な機能	10
時刻と星座盤の合わせ方	12
日の出時刻と日の入り時刻	16
星座盤の表示について	17
星座の略号と星座名および学名	18
星座盤に表示してある星雲星団	22
星座盤説明図	24
天文用語の簡単な解説	26
お取り扱いにあたって	34
製品仕様	42
お問い合わせ窓口	44

北緯35°星座全天表示型

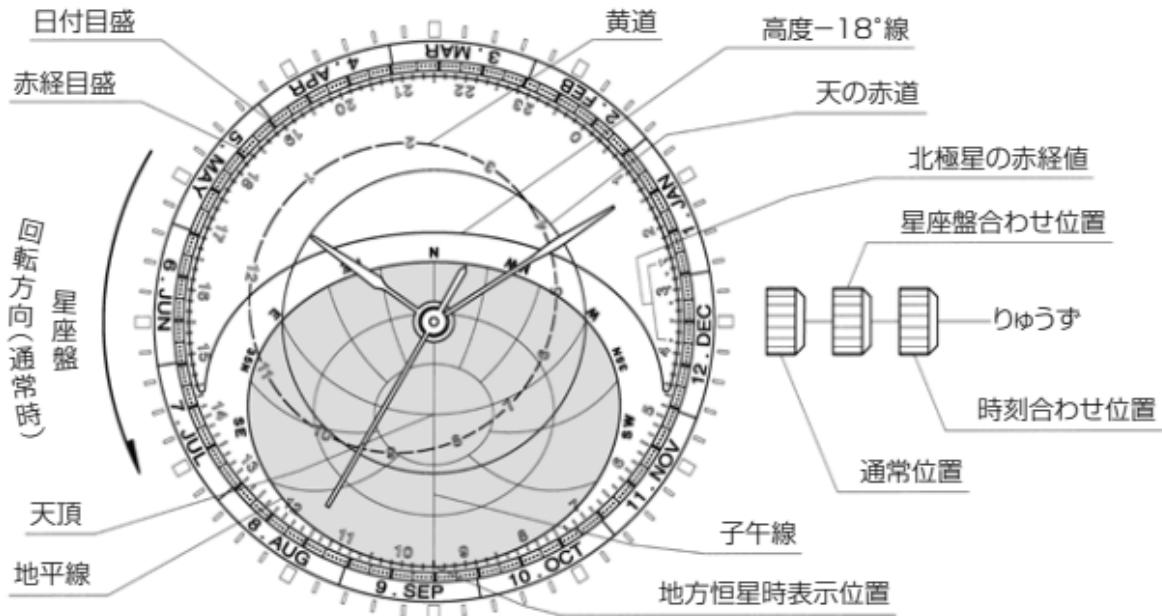


CAMPANOLA 星座ウォッチ 天球の表示範囲

CAMPANOLA 星座ウォッチ

CAMPANOLA星座ウォッチは、時刻とともに移り変わる星座配置を表示したアナログクオーツウォッチです。主な恒星と星雲星団の方位高度、地方恒星時、恒星のスペクトル型、北極星の時角などが表示され、天文薄明の判定もできるので天体観測に役立ちます。また、太陽の位置や日の出時刻と日の入り時刻もわかり、日常生活にも便利なウォッチです。

北緯35° 星座全天表示型



北天の歪みが小さく、北緯35°で見られる天球の大部分の範囲(約97.4%)を表示します。
(星座盤の表示範囲：赤緯-55.57°～赤緯+72.28°)

※モデルによってデザイン・機能が異なります。

主な機能

- ・実視等級4.0等(変光星は極大等級)以上の明るさの恒星452個を0.1等級きざみでスペクトル別に4色表示するとともに、主な星雲星団119個、星座境界線、黄道、天の赤道を星座盤上に2000.0年分点で表示した星座表示機能。
- ・現在の星座配置が自動表示されるだけでなく、必要なときには星座早見盤として星座盤を任意の位置に回転させることができる星座早見機能。
- ・星座盤の黄道(天球上の太陽の軌跡)上に各月1日、11日、21日の太陽位置(平均的な年の世界時12時基準)を破線のすきまで示した太陽位置表示機能。透明文字板上の地平線を用いて、日の出時刻と日の入り時刻などもわかります。
- ・天球上の主な恒星と主な星雲星団および太陽の方位高度がわかる方位高度表示機能。透明文字板上の 30° 間隔の高度線は、大気差補正しています。

- ・星座配置を知るのに便利な地方恒星時表示機能。透明文字板上の子午線に重なっている星座盤の赤経目盛を読むことによって、地方恒星時がわかります。
- ・空の暗さを判定でき、天体観測に役立つ天文薄明判定機能。星座盤の黄道上の太陽位置と透明文字板上の高度-18°線(北緯35°基準)を用いて、天文薄明の開始終了の時刻を求めることができます。
- ・天体望遠鏡の極軸合わせに便利な北極星の時角表示機能。2000.0年～2050.0年まで10年ごとの北極星の赤経値が、マークで星座盤に表示されています。透明文字板の子午線方向から現在の北極星の赤経値に相当する位置まで左回りに測った角度が、北極星の時角になります。

※星座盤回転中心部付近の天球は、針の取り付け部分の下に隠れるため表示されていません。

時刻と星座盤の合わせ方

※ りゅうずを上手に引くテクニック：りゅうずがうまく引けないときは、無理をせず一旦戻し、右手中指の爪先を裏ぶた側からりゅうずの首下にりゅうずを少し回転させながら軽く押し入れると1段目まで簡単に引けます。1段引き位置で星座盤のみ早修正することができます。2段引き位置まで引くには、右手親指と右手中指の爪先との間でりゅうずをつまみ、同じく少し回転気味にやや強めに引くと2段引きの状態になり秒針が停止します。2段引き位置で時分針を合わせることができ、星座盤は時分針に連動します。

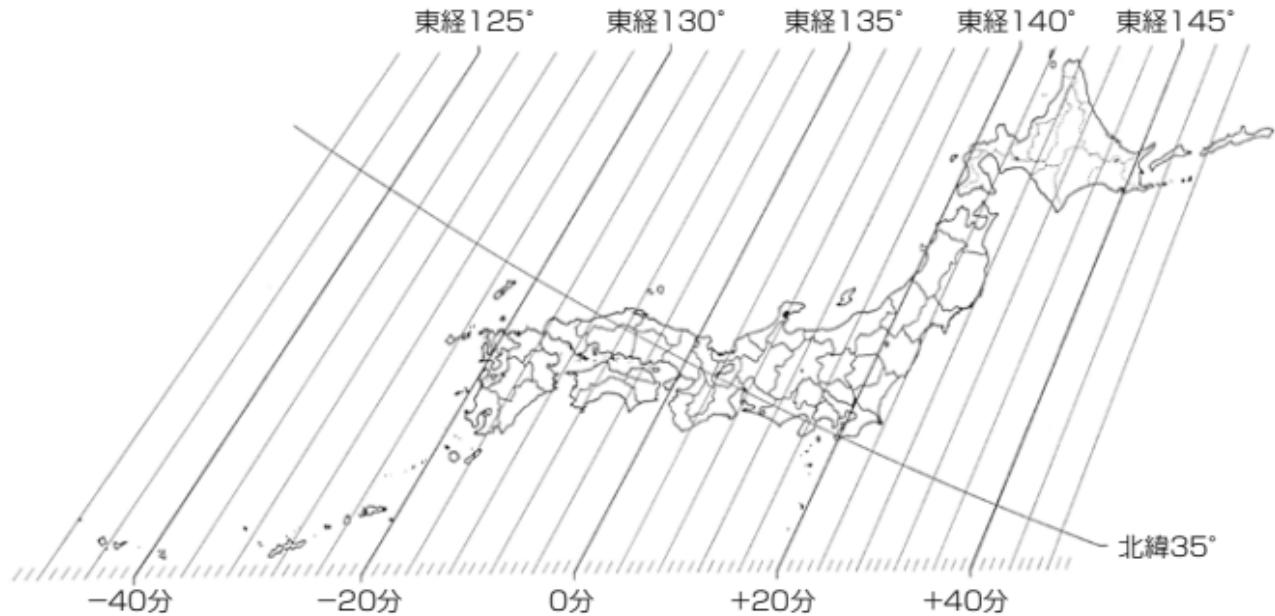
◆ 時刻の合わせ方

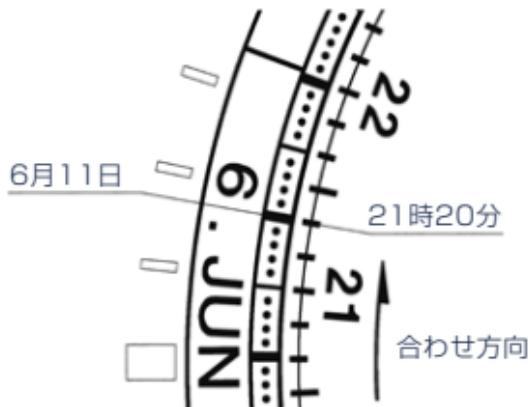
1. 秒針が0秒にきたときにりゅうずを2段引き出します。
2. りゅうずを回して現在時刻に時分針を合わせます。
分針は正しい時刻より4~5分進めてから逆に戻して合わせてください。
3. 時報等に合わせてりゅうずをきちんと通常位置まで押し込みます。

◆ 星座盤の合わせ方

4. りゅうずを1段目まで引き出します。
5. 観測地点経度と標準時経度との間の地方恒星時の時差を調べます。
地方恒星時は経度によって決まり、経度差 1° あたり4分の割合で東側ほど進んでいます。
6. 現在時刻(24時間制で表した時刻)に、先に調べた地方恒星時の時差分を加えた時刻に相当する星座盤の赤経目盛が、文字板リングの当日の日付目盛に一致するようにりゅうず左回転(星座盤は右回転)で合わせ込みます。
7. りゅうずを通常位置まで押し込みます。

◆ 経度および標準時経度(東経135°)との間の地方恒星時の時差





例えば、標準時経度(東経135°)より5°東(東経140°)で6月11日21時00分の場合は、21時00分+20分=21時20分に相当する星座盤の赤経目盛位置が、文字板リングの6月11日の日付目盛に一致するようにりゅうず左回転(星座盤は右回転)で合わせます。合わせた後はりゅうずを必ず通常位置まで押し込んでください。

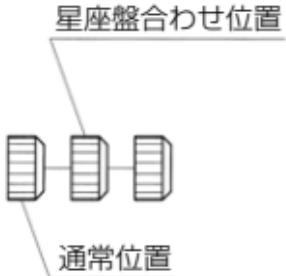
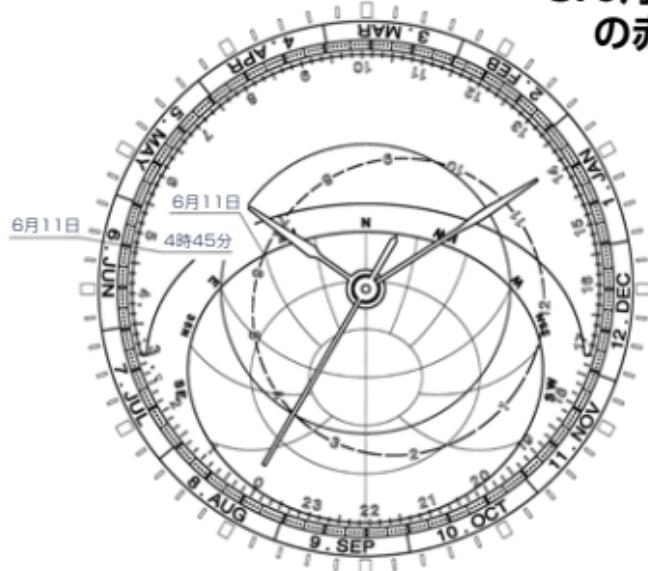
- ※ 文字板リングの日付目盛は、平均的な年の各日世界時12時(日本標準時21時)を各目盛線幅の中心位置とする基準で刻んであります。各月1日、11日、21日位置が太線、6日、16日、26日位置が細線で表示してあります。
- ※より正確に合わせたいときは、地方恒星時の補正值(P.33参照)を加えて合わせます。

日の出時刻と日の入り時刻

1. りゅうずを1段目まで引き出します。
2. りゅうずを回して、星座盤の黄道上の6月11日の太陽位置が、透明文字板の東側地平線外側輪郭に重なるように合わせます。

例) 標準時経度における6月11日の日の出時刻

3. 6月11日の日付目盛に対向する星座盤の赤経目盛を読みます。



※ この機能を使用した後は、りゅうずを左に回して星座盤を右回転方向で現在の状態に戻してください。から、りゅうずを必ず通常位置まで押し込んでください。

星座盤の表示について

- 恒星は、スペクトル別に、原則として下記の分類で色分け表示してあります。

O型星とB型星	:	青みのある銀色	128個
A型星とF型星	:	銀色	134個
G型星とK型星	:	黄みのある銀色	161個
M型星	:	赤みのある銀色	29個

- 恒星の等級は、星座盤上の赤経目盛2h～3h付近に表示してあります。
- 星座盤上で分離困難な近接星(重星を含む)は合成等級で表示し、色と位置は主星(みかけ上、明るい方の星)のスペクトル型と位置で表示してあります。
- 変光星は、極大等級で星座盤に表示してあります。ただし、星座盤上では変光星としての特別な識別はしてありません。
- 主な星雲星団は、淡緑色で表示してあります。
- プレアデス星団とヒアデス星団は、恒星群で表示してあります。

星座の略号と星座名および学名

略号	星座名	学名	略号	星座名	学名
And	アンドロメダ	Andromeda	Cam	きりん	Camelopardalis
Ant	ポンプ	Antlia	Cap	やぎ	Capricornus
Aps	ふうちょう	Apus	Car	りゅうこつ	Carina
Aql	わし	Aquila	Cas	カシオペヤ	Cassiopeia
Aqr	みずがめ	Aquarius	Cen	ケンタウルス	Centaurus
Ara	さいだん	Ara	Cep	ケフェウス	Cepheus
Ari	おひつじ	Aries	Cet	くじら	Cetus
Aur	ぎょしゃ	Auriga	Cha	カメレオン	Chamaeleon
Boo	うしかい	Bootes	Cir	コンパス	Circinus
Cae	ちょうこくぐ	Caelum	CMa	おおいぬ	Canis Major

星座の略号と星座名および学名

略号	星座名	学名	略号	星座名	学名
CMi	こいぬ	Canis Minor	Dra	りゅう	Draco
Cnc	かに	Cancer	Equ	こうま	Equuleus
Col	はと	Columba	Eri	エリダヌス	Eridanus
Com	かみのけ	Coma Berenices	For	ろ	Fornax
CrA	みなみのかんむり	Corona Australis	Gem	ふたご	Gemini
CrB	かんむり	Corona Borealis	Gru	つる	Grus
Crt	コップ	Crater	Her	ヘルクレス	Hercules
Cru	みなみじゅうじ	Crux	Hor	とけい	Horologium
Crv	からす	Corvus	Hya	うみへび	Hydra
CVn	りょうけん	Canes Venatici	Hyi	みずへび	Hydrus
Cyg	はくちょう	Cygnus	Ind	インディアン	Indus
Del	いるか	Delphinus	Lac	とかげ	Lacerta
Dor	かじき	Dorado	Leo	しし	Leo

日本語

星座の略号と星座名および学名

略号	星座名	学名	略号	星座名	学名
Lep	うさぎ	Lepus	Ori	オリオン	Orion
Lib	てんびん	Libra	Pav	くじやく	Pavo
LMi	こじし	Leo Minor	Peg	ペガスス	Pegasus
Lup	おおかみ	Lupus	Per	ペルセウス	Perseus
Lyn	やまねこ	Lynx	Phe	ほうおう	Phoenix
Lyr	こと	Lyra	Pic	がか	Pictor
Men	テーブルさん	Mensa	PsA	みなみのうお	Piscis Austrinus
Mic	けんぴきょう	Microscopium	Psc	うお	Pisces
Mon	いっかくじゅう	Monoceros	Pup	とも	Puppis
Mus	はえ	Musca	Pyx	らしんばん	Pyxis
Nor	じょうぎ	Norma	Ret	レチクル	Reticulum
Oct	はちぶんぎ	Octans	Scl	ちょうこくしつ	Sculptor
Oph	へびつかい	Ophiuchus	Sco	さそり	Scorpius

星座の略号と星座名および学名

日本語

略号	星座名	学名	略号	星座名	学名
Sct	たて	Scutum	TrA	みなみのさんかく	Triangulum Australe
Ser	へび	Serpens	Tri	さんかく	Triangulum
Ser	へび頭部	Serpens Caput	Tuc	きよしちょう	Tucana
Ser	へび尾部	Serpens Cauda	UMa	おおぐま	Ursa Major
Sex	ろくぶんぎ	Sextans	UMi	こぐま	Ursa Minor
Sge	や	Sagitta	Vel	ほ	Vela
Sgr	いて	Sagittarius	Vir	おとめ	Virgo
Tau	おうし	Taurus	Vol	とびうお	Volans
Tel	ぼうえんきょう	Telescopium	Vul	こぎつね	Vulpecula

※ Aps Cha Cir Cru Hyi Men Mus Oct Pav TrA Tuc Vol の星座は、北緯35°から見ることができない天球範囲に全てもしくはほぼ全範囲が含まれるため略号表記してありません。

星座盤に表示してある星雲星団

M31(And) NGC752(And) M72(Aqr) NGC7009(Aqr) M2(Aqr) NGC7293(Aqr)
NGC6397(Ara) M38(Aur) M36(Aur) M37(Aur) M30(Cap) NGC281(Cas)
M103(Cas) M52(Cas) NGC5128(Cen) NGC5139(Cen) M77(Cet) M41(CMa)
M44(Cnc) M67(Cnc) NGC1851(Col) M99(Com) M100(Com) M85(Com)
M88(Com) NGC4565(Com) M64(Com) M53(Com) NGC6541(CrA)
NGC4258(CVn) NGC4631(CVn) M94(CVn) M63(CVn) M51(CVn) M3(CVn)
I.1318(Cyg) M29(Cyg) NGC6992-5(Cyg) NGC7000(Cyg) M39(Cyg)
M35(Gem) NGC2392(Gem) M13(Her) M92(Her) M48(Hya) NGC3242(Hya)
M68(Hya) M83(Hya) NGC2903(Leo) M96(Leo) NGC3379(Leo) M66(Leo)
M79(Lep) M57(Lyr) M56(Lyr) NGC2237-9(Mon) M50(Mon) NGC6067(Nor)
NGC6171(Oph) M12(Oph) M10(Oph) M62(Oph) M19(Oph) M9(Oph)
M14(Oph) M42(Ori) M78(Ori) M15(Peg) M76(Per) NGC869(Per) NGC884(Per)
M34(Per) NGC1499(Per) M74(Psc) M47(Pup) M46(Pup) M93(Pup) NGC55(Scl)
NGC253(Scl) M80(Sco) M4(Sco) M6(Sco) M7(Sco) M26(Sct) M11(Sct) M5(Ser)
M16(Ser) M71(Sge) M23(Sgr) M20(Sgr) M8(Sgr) M21(Sgr) M24(Sgr) M17(Sgr)
M28(Sgr) M69(Sgr) M25(Sgr) M22(Sgr) M70(Sgr) M54(Sgr) NGC6723(Sgr)

星座盤に表示してある星雲星団

M55(Sgr) M75(Sgr) M1(Tau) M33(Tri) M81(UMa) M82(UMa) NGC3556(UMa)
M97(UMa) M101(UMa) NGC3132(Vel) M61(Vir) M84(Vir) M49(Vir) M87(Vir)
M58(Vir) M104(Vir) M60(Vir) M27(Vul)

※ 星雲星団は、所属星座アルファベット順、星座内は赤経順(星座盤上で右回り)に並べてあります。

日本語

星座盤説明図



- ①シリウス(α CMa)
- ②カノープス(α Car)
- ③アルクトゥルス(α Boo)
- ④ベガ(α Lyr)
- ⑤カペラ(α Aur)
- ⑥リゲル(β Ori)
- ⑦プロキオン(α CMi)
- ⑧ベテルギウス(α Ori)



- ⑨アルタイル(α Aql)
- ⑩アルデバラン(α Tau)
- ⑪アンタレス(α Sco)
- ⑫スピカ(α Vir)
- ⑬恒星の等級
- ⑭天の川(おおよその範囲)
- ⑮太陽位置(10月21日)
- ⑯北極星の赤経(2000.0)

天文用語の簡単な解説

てん きゅう
天球

天体の視位置を表示するために考えられた仮想の球面。その中心は観測地点であり、半径は無限大です。ただし、図示するときは有限で外部から見ているように描きます。

てん ちょう
天頂

観測地点の鉛直線（重力の方向）を上方に延長し天球と交わらせた点。天球上で観測地点の真上の点。

ち へい せん
地平線

観測地点を含み鉛直線（重力の方向）に垂直な平面と天球との交線

てん ほつ きょく
天の北極

地球の自転軸を延長して天球と交わらせた2点のうち、地球の北半球から観測できる方の点。もう一つの地球の南半球で観測できる方の点が天の南極。

し ご セん
子午線

天の北極、天頂、天の南極を含む平面と天球との交線のうち、地平線より上にある部分。この中で、時角の起点や地方恒星時の読み取りに使う部分は、見えている側の天の極（北半球では天の北極）から天頂を通り反対側の天の極（北半球では天の南極）に向かって地平線に達するまでの範囲になります。地表上の南北方向の方位線と特に区別したいときに天の子午線と呼ぶこともありますが、天体観測で子午線と言えば天球上のものを指します。

てん せき どう
天の赤道

地球の自転軸に垂直で観測地点を含む平面と天球との交線。

こう どう
黄道

天球上で太陽の通る平均的な経路。天の赤道に対して約 23.4° 傾斜しています。この時計の星座盤には、黄道とその黄道上に各月1日、11日、21日の太陽位置(平均的な年の世界時12時基準)が破線のすきまで表示してあります。

しゅん ぶん てん
春分点

黄道と天の赤道との2交点のうち、太陽が天の赤道の南側から北側に移るときに通過する点。もう一つの交点が秋分点です。太陽の中心がこれらの点を通過するときが春分および秋分です。

せき い せつ けい
赤緯と赤経

天球上における位置を表示するために、天の赤道と春分点を基準にしてきめた緯度と経度。赤緯は天の赤道上が 0° で、天の赤道より北は $+90^{\circ}$ （天の北極）、南は -90° （天の南極）まで測り、赤経は春分点上が 0° でそれより東回りに $359^{\circ} 59' 59'' .9\dots$ まで測ります。一般に赤経は度分秒で表す代わりに $15^{\circ}=1$ 時間の割合で換算して $0\text{h}\sim 23\text{h}59\text{m}59.9\dots\text{s}$ で表します。星座盤外周の目盛が赤経を表しています。

こう い こう けい
黄緯と黄経

天球上における位置を表示するために、黄道と春分点を基準にしてきめた緯度と経度。黄緯は黄道上が 0° で、黄道より北は $+90^{\circ}$ （黄道の北極）、南は -90° （黄道の南極）まで測り、黄経は春分点上がり 0° でそれより東回りに $359^{\circ} 59' 59'' .9\dots$ まで測ります。

地方恒星時 ち ほう こう せい じ

観測地点の子午線を起点として春分点まで西回りに測った角度(春分点の時角)を度分秒で表す代わりに $15^{\circ}=1$ 時間の割合で換算して時分秒(0h~23h59m59.9…s)で表したもの。この時計では、透明文字板上の子午線に重なる星座盤の赤経目盛の値が地方恒星時になります。

時角 じ かく

子午線を起点として、目的の天体(またはある点)まで西回りに測った角度。一般に時角も度分秒で表す代わりに $15^{\circ}=1$ 時間の割合で換算して時分秒で表すことが多く、また、子午線の東側にある天体には、子午線から東回りに測ってーの値で表すこともあります。

たい き さ
大気差

地球をつつむ大気の屈折によって、天体のみかけの位置が実際の位置よりも浮き上がって見える現象およびその量。この時計の透明文字板上に表示した地平線を含む高度線は、大気差を補正してあります。地平線上に見えてる天体の浮き上がり量(約 0.57°)を地平大気差(ちへいたいきさ)といいます。

てん もん はく めい
天文薄明

日没後または日の出前に天空に太陽による残光があり、あたりがうす明るく見える現象を薄明といいます。特に太陽の高度が $-12^{\circ} \sim -18^{\circ}$ (地平線下 18°)の間を天文薄明といいます。天文薄明が終わると(または始まる前)空が澄んでいれば天頂付近に6等星が見えます。この時計には、天文薄明判定のための北緯 35° を基準とする高度 -18° の線が透明文字板上に表示してあります。

星座境界線 せいざきょうかいせん

星座境界線は、1875.0年基準の赤緯線と赤経線で構成されています。天の北極および天の南極と春分点および秋分点の移動により、星座盤（2000.0年基準）の赤緯線および赤経線と星座境界線は一致していません。

北極星の時角 ほくきょくせいじかく

天の北極には目印になるものはありませんが、近くに北極星（2.0等星、赤緯 $+89^{\circ}15'51''$ 、赤経 $2h31m50s \cdots$ J2000.0年分点）があります。天の北極と北極星の間の離れている角度は計算などからわかっていますので、北極星の時角がわかれれば北極星を使って天の北極を求めるることができます。北極星の時角が求められるように、星座盤外周部の赤経目盛 $2h \sim 4h$ 付近に大小の▼マークで2000.0年から2050.0年までの10年ごとの北極星の赤経値が表示しています。

◆ 地方恒星時の補正值 (時計の目盛は、1950.0年～2050.0年の平均値)

年.月	年.月	補正值	年.月	年.月	補正值	年.月	年.月	補正值
2019.3 ~ 2020.2	-1分	2029.3 ~ 2030.2	+1分	2039.3 ~ 2040.2	0分	2040.3 ~ 2041.2	+3分	
2020.3 ~ 2021.2	+2分	2030.3 ~ 2031.2	0分	2041.3 ~ 2042.2	+2分			
2021.3 ~ 2022.2	+1分	2031.3 ~ 2032.2	-1分	2042.3 ~ 2043.2	+1分			
2022.3 ~ 2023.2	0分	2032.3 ~ 2033.2	+2分	2043.3 ~ 2044.2	0分			
2023.3 ~ 2024.2	-1分	2033.3 ~ 2034.2	+2分	2044.3 ~ 2045.2	+3分			
2024.3 ~ 2025.2	+2分	2034.3 ~ 2035.2	+1分	2045.3 ~ 2046.2	+2分			
2025.3 ~ 2026.2	+1分	2035.3 ~ 2036.2	0分	2046.3 ~ 2047.2	+1分			
2026.3 ~ 2027.2	0分	2036.3 ~ 2037.2	+3分	2047.3 ~ 2048.2	0分			
2027.3 ~ 2028.2	-1分	2037.3 ~ 2038.2	+2分	2048.3 ~ 2049.2	+3分			
2028.3 ~ 2029.2	+2分	2038.3 ~ 2039.2	+1分					

※ 時計本体ならびに取扱説明書(本品)を、許可なく複製または引用転載することを禁止します。
また、部分を含む複製または引用転載も禁止します。

お取り扱いにあたって

△警告 防水性能について

- ・時計の文字板および裏ぶたの防水性能表示をご確認の上、下表を参照して正しくご使用ください。
(1barは約1気圧に相当します)
- ・WATER RESIST(ANT) ×× barはW.R. ×× barと表示している場合があります。
- ・非防水時計は、水中や水に触れる環境での使用はできません。
- ・日常生活用防水時計(3気圧防水)は、洗顔などには使用できますが、水中での使用はできません。

名称	表示	仕様
	文字板または裏ぶた	
非防水時計	—	非防水
日常生活用防水時計	WATER RESIST(ANT)	3気圧防水
日常生活用強化防水時計	WATER RESIST(ANT) 5 bar	5気圧防水
	WATER RESIST(ANT) 10/20 bar	10気圧防水、20気圧防水

- 日常生活用強化防水時計（5気圧防水）は、水泳などには使用できますが、素潜り（スキンダイビング）やスクuba潜水などには使用できません。
- 日常生活用強化防水時計（10/20気圧防水）は、素潜りには使用できますが、スクuba潜水・ヘリウムガスを使う飽和潜水には使用できません。

使用例

				
水がかかる程度の使用。(洗顔、雨など)	水仕事や一般水泳に使用。	スキンダイビング、マリンスポーツに使用。	空気ボンベを使用するスクuba潜水に使用。	水滴がついた状態でのりゅうずやボタンの操作。
×	×	×	×	×
○	×	×	×	×
○	○	×	×	×
○	○	○	×	×

⚠ 注意 人への危害を防ぐために

- ・幼児を抱くときは、幼児のけがや事故防止のため、あらかじめ時計を外すなど十分ご注意ください。
- ・激しい運動や作業などを行うときは、ご自身や第三者へのけがや事故防止のため、十分ご注意ください。
- ・サウナなど時計が高温になる場所では、やけどの恐れがあるため絶対に使用しないでください。
- ・バンドの中留め構造によっては、着脱の際に爪を傷つける恐れがありますのでご注意ください。
- ・時計をしたまま就寝しないでください。思わぬけがやかぶれを引き起こす恐れがあります。

⚠ 注意 使用上の注意

- ・リューズは常に押し込んだ状態（通常位置）でご使用ください。リューズがねじ締めタイプであれば、しっかりと固定されているか確認してください。
- ・水分のついたままリューズ操作をしないでください。時計内部に水分が入り防水不良となる場合があります。
- ・万一、時計内部に水が入ったり、またガラスの内面にクモリが発生し長時間消えないときは、そのまま放置せず、お買い上げ店または、弊社お問い合わせ窓口へ修理、点検を依頼してください。

- ・時計の防水性能が高い場合でも、次のことにご注意ください。
 - 海水に浸したときは、真水で洗い乾いた布で良くふきとる。
 - 水道水を蛇口から直接時計にかけない。
 - 入浴するときは時計をはずす。
- ・時計内部に海水が入った場合には、箱やビニール袋に入れてすぐに修理依頼をしてください。時計内部の圧力が高まり、部品（ガラス、りゅうず、プッシュボタンなど）が外れる危険があります。

△ 注意 携帯時の注意

<バンドについて>

- ・皮革バンドやウレタンバンド（ゴムバンド）は、汗や汚れにより劣化します。定期的な交換を行ってください。
- ・皮革バンドは材質の特性上、水に濡れると耐久性に影響がでる場合があります。（脱色、接着はがれ）また、かぶれの原因にもなります。
- ・皮革バンドの時計は防水時計であっても、水を使うときは時計を外すことをおすすめします。
- ・バンドは多少余裕を持たせ、通気性を良くしてご使用ください。
- ・ウレタンバンド（ゴムバンド）は、衣類等の染料や汚れが付着し、除去できなくなることがあります。色落ちするもの（衣類、バッグ等）と一緒に使用する場合はご注意ください。また、溶剤や空気中の湿気などにより劣化する性質があります。弾力性がなくなり、ひび割れを生じたらお取替えください。

お取り扱いにあたって

- ・以下の場合は、速やかにバンドの調整・修理をご依頼ください。
 - 腐食により、バンドに異常が認められたとき
 - バンドのピンが飛び出しているとき
- ・お客様ご自身で時計のバンド（金属やゴム）の長さを調整しないでください。時計が落下したり、調整時にケガをする怖れがあります。
バンドの調整は、お買い上げ店または、弊社お問い合わせ窓口にて承っております。
その他のお店では有料もしくは取り扱っていない場合があります。

<温度について>

- ・極端な高温 / 低温の環境下では、時計が停止したり、機能が低下する場合があります。製品仕様の作動温度範囲外でのご使用はおやめください。

<磁気について>

- ・アナログ式クオーツ時計は、磁石を利用した「ステップモーター」で動いており、外部から強い磁気を受けるとモーターの動きがみだされて、正しい時刻を表示しなくなる場合があります。磁気の強い健康器具（磁気ネックレス・磁気健康腹巻など）、冷蔵庫のマグネットドア、バッグの留め具、携帯電話のスピーカー部、電磁調理器などに近づけないでください。

<ショックについて>

- ・床面に落とすなどの激しいショックは与えないでください。外装・バンドなどの損傷だけでなく機能、性能に異常を生じる場合があります。

<静電気について>

- クオーツ時計に使われているICは、静電気に弱い性質を持っています。強い静電気を受けると正しい時刻を表示しない場合がありますので、ご注意ください。

<化学薬品・ガス・水銀について>

- 化学薬品・ガスの中でのご使用はお避けください。シンナー・ベンジン等の各種溶剤およびそれらを含有するもの（ガソリン・マニキュア・クレゾール・トイレ用洗剤・接着剤・撥水剤など）が時計に付着しますと、変色・溶解・ひび割れ等を起こす場合があります。薬品類には十分注意してください。また、体温計などに使用されている水銀に触れたりしますと、ケース・バンド等が変色することがありますのでご注意ください。

<保護シールについて>

- 時計のガラス部分や金属部分（裏ぶた、バンド、中留め）にシールが貼られているときは、ご使用の前に必ずはがしてください。シールのすき間に汗や水分が入り込むと、皮膚のかぶれや金属の腐食の原因となる場合があります。

⚠ 警告 電池の取り扱いについて

- 万一電池をはずした場合は、幼児の手の届かないところに保管してください。
- 誤って電池を飲み込んだ場合にはただちに医師と相談して治療を受けてください。

△注意 電池交換について

- ・電池寿命切れの時計をそのままにしておきますと、漏液等により故障の原因となることがあります。早めに電池交換してください。

△注意 時計は常に清潔に

- ・りゅうずやプッシュボタンを長期間動かさないままにしていると、付着しているゴミや汚れが固まり、操作できなくなる事がありますので、ときどきりゅうずを空回りさせたり、プッシュボタンを押してください。また、ゴミ、汚れを落としてください。
- ・ケースやバンドは、肌着類と同様に直接肌に接しています。金属の腐食や汗、汚れ、ほこりなどの気づかない汚れで衣類の袖口などを汚す場合があります。常に清潔にしてご使用ください。
- ・ケースやバンドは直接肌に接しています。ケースやバンドに発生したサビ、汚れ、付着した汗、または金属、皮革アレルギーなどにより皮膚にかゆみ・かぶれを生じる場合があります。異常を感じたらすぐに使用を中止して医師に相談してください。
- ・汗や汚れが付着した場合は、金属材質のバンドやケースは、はけなどを使い中性洗剤で汚れを除去してください。皮革材質のバンドは、乾いた布などで拭き、汚れを除去してください。
- ・皮革バンドは汗や汚れにより「色落ち」を起こすことがあります。乾いた布で拭くなどして常に清潔にご使用ください。

時計のお手入れ方法

- ・ケース・ガラスの汚れや汗などの水分は、柔らかい布で拭き取ってください。
- ・金属バンド・プラスチックバンド・ウレタンバンド（ゴムバンド）は水で汚れを洗い落としてください。
- ・金属バンドのすき間につまったゴミや汚れは柔らかいハケなどで除去してください。
- ・皮革バンドは乾いた布などで拭いて汚れを除去してください。
- ・時計を長時間ご使用にならないときは、汗・汚れ・水分などを良く拭き取り、高温・低温・多湿の場所を避けて保管してください。

夜光付き時計の場合は

時計の文字板や針には、放射性物質などの有害物質を一切含まない、人体や環境に安全な物質を使用した蓄光塗料が使用されています。

この塗料は太陽光や室内照明（白熱灯を除く）などの光を蓄え、暗い所で発光します。

- ・蓄えた光を放出させるため、時間の経過とともに少しずつ明るさ（輝度）は落ちていきます。
- ・光を蓄えるときの光の明るさや光源からの距離、光の照射時間や蓄光塗料の量などによって、発光する時間に差異が生じます。
- ・光が十分に蓄えられていないと、暗い場所で発光しなかったり、発光してもすぐに暗くなってしまう場合がありますのでご注意ください。

製品仕様

機種	4391/4394
水晶振動数	32,768Hz (Hz: 1秒間の振動数)
時間精度	平均月差±20秒 常温 (+5°C~+35°C) 携帯時
作動温度範囲	-10°C~+60°C
付加機能	<ul style="list-style-type: none">• 星座表示機能<ul style="list-style-type: none">星座盤回転歯数比: 366/365 回転/日星座盤回転周期: 約23時間56分04秒星座盤回転方向: 左回転 (通常時)• 星座早見機能• 太陽位置表示機能• 方位高度表示機能• 地方恒星時表示機能• 天文薄明判定機能• 北極星の時角表示機能

使用電池	小型銀電池 1個 280-39 (SR626SW)
電池寿命	約 3 年

※ 仕様は改良のため予告なく変更することがあります。

日本語

